

洋書輸入協会会報

VOL. 5
NO. 6

(通巻50号) 昭和46年6月

創刊50号記念特集

創刊50号を祝う

理事長 司 忠



洋書輸入協会会報が昭和42年5月創刊以来、今日50号を刊行することになりましたことは、会の発展とともに誠に慶賀に堪えません。その間会員への営業上必要な情報、有益な記事を報道して会の発展に寄与した力は高く評価さるべきものと思います。

本会報創刊号に報ぜられている通り昭和42年5月には、会の運営を合理化し強化するために七つの専門委員会を設置して組織を充実させ、その後各委員および会員諸氏のご努力によって円滑且つ活発な運営が行なわれて来たことはご承知の通りですが、輸入自由化が推進され、国際金融の諸問題を始め、外国資本の進出その他重要課題を抱えている業界にあって、この会の活動状況、内外の情報を提供する本会報の役目は極めて重要であります。

今後も当協会の発展のため、会員担当のコミュニケーション機関として内容の充実を計るよう期待して祝詞とします。

理 事 会 報 告

5月10日（月）

- (一) 東独より、Dietz Verlages の Leiter, Dr. Günter Hennig と Deutscher Buch-Export und Import GmbH の Director für Export und Import, Mr. Siegfried Seumel の二氏が出席、東独書展示会につき挨拶があった。
- (二) 西独・マルク及びオランダ・ギルダーの変動相場制への突入と、スイス・フラン、オーストリア・シリングの切上げに関する情勢の検討。
- (三) 丸善司社長の叙勲につきお祝いの相談。
- (四) 経営委員会より。（石内氏）

Sole Agent List の名称を来年よりは Directory of Japan Book Importers Association とし、協会員名簿もつけ、体裁の良いものとし、海外よりの広告を取り易くしたかどうか。（渉外PR委員会よりの提案事項）

5月26日（水）

- (一) 通関委員会より。（柴田氏）

- (1) 東京税関東京外郵出張所長が5月1日付にて関氏より広瀬氏へ交替されたので5月19日に丸善と紀伊國屋にて挨拶を行った。
- (2) 東京外郵・通関協議会への準会員の登録申請が済まれている会員があるので急がれるように。

- (二) 渉外PR委員会より。（小川氏）

McGraw 社の雑誌関係の代表者である Mr. Owen の後任は Mr. Manning が代行する。

- (三) 海賊版の件。（福田氏）

又々海賊版が出版されているという通知があり、訪問した所マンション内に事務所が置かれていた。レプレゼンタティブと連絡を取り対処することとする。

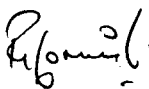
- (四) ドイツ・マルク等の通貨問題につき情勢検討。

東海懇談会だより

46年度総会開催 4月10日（土）午後6時より、於井筒 出席7社（11名）

- ① 45年度会計報告——承認
- ② 役員改選——全員留任決議
- ③ 紀伊國屋、ナウカ両営業所長の新旧交代歓送迎会——紀伊國屋書店藤本所長は大阪営業所へ、ナウカ 佐藤所長は東京本社へそれぞれご栄転が決り、新しく丸岡（紀伊國屋）野村（ナウカ）の両所長を迎えての歓送迎会を行った。

Books from Britain in Japan

by 

Librarian of the British Council, Japan

In the Bible, in the Ecclesiastes, we read:

“Of making many books there is no end; and much study is a weariness of the flesh.”

To the bookseller as well as to the Librarian it certainly looks as if there is no end to the making – or printing – of books. The number of different titles published each year rises steadily and with it the demand for more specific information on more obtuse and difficult subjects. Often the bookseller finds he is called upon to be, at first, an expert in computer science when recommending and evaluating books on that subject for a prospective customer and next an expert on tennis or baseball in assisting an enquirer about sports books. Then he is confronted with a surgeon for assistance in tracking down the latest book on heart transplant operations: next a schoolboy for an up to date atlas of the world. And so it goes on. “Of making many books there is no end” and of the search for information there is no end. Also, the bookseller might add, of the trying to sell these many books there seems no end, for larger numbers of different titles imposes the added problem of selling. Stock titles as well as new titles must be sold as more and more books roll off the printing press. Always it is the new book that has the appeal to the buyer whereas many know that very often the new book is not always as useful as an earlier book on the same subject.

These problems are the same in Britain as in Japan but for the British publisher the problem of selling abroad is much more demanding than to his Japanese counterpart. A half of all books printed in Britain – and in 1970 there were over 32,000 different titles published – are sold abroad as exports. Of the books sold in Britain the majority of hard-cover sales are made to libraries – to the public, university and special libraries of Britain. But be it Britain or Japan the basic problems remain the same.

No one knows all these problems better than a librarian, the man who has concerned himself with books for the greater part of his life. Many people talk of the book as a “storehouse, or treasure-house, of knowledge” and speak in glowing terms of the exchange of ideas that books permit. One person knows and writes; one person wants to learn so reads. The idealist talks of the exchange of cultural ideas and national heritages in the form of books and in the shape of printed words on paper. Broadened horizons, lowering cultural barriers, exchange of ideas are all slogans used in the effort to sell books one to the other.

We in the British Council try to help in this effort by making known to anyone in Japan the full

range and scope of book from Britain. We do this in two major ways; through the Library services and through the British Book Display Centre in Tokyo.

The British Council Libraries are situated in Tokyo and Kyoto. The Tokyo Library is on the eighth floor of the Iwanami Building at Jimbo-cho. It comprises: —

A LENDING LIBRARY with a stock of 30,000 volumes, covering most fields of knowledge, and specialising in English Literature, the Humanities and the Arts.

A REFERENCE SECTION, including current Government publications, maintained to provide answers to questions about all aspects of British life.

A PHOTOGRAPHIC COLLECTION, covering most aspects of British life, institutions, technology and customs, from which photographs may be borrowed and in most cases reproduced for publication.

A READING ROOM which displays 150 current British periodicals, journals and newspapers. Back numbers are retained and may be borrowed for home reading or research. The Reading Room also provides comfortable accommodation for work, study and leisure reading.

The British Book Display Centre is in the room next to the Library in the Iwanami Building and provides a special information service for all those who wish to buy British Books, whether as private individuals or as officials with the responsibility of ordering books from Britain on behalf of Government agencies, Public Libraries, University Libraries, Education authorities and research institutes.

The Centre displays about 4,000 new books at a time. These are the latest books published in Britain, selected by their Publishers as most likely to interest Japanese readers and students. The stock changes frequently, and is augmented by exhibitions of selected books of interest to specialists in a particular subject.

The books displayed in the Centre form a comprehensive and representative collection of the best works in most fields of knowledge produced in Britain each year. The emphasis is on works of academic and educational interest, but the display includes serious fiction, biography, and high quality popular books. The stock is constantly renewed by fresh supplies imported directly from Britain.

The books are not for sale or loan. The purpose is to enable those who want to buy British Books to handle, study, compare and evaluate the latest publications so that they can order what they need from their own suppliers.

As a further service to books buyers, the Display Centre provides full bibliographical information by means of

The British National Bibliography

British Books in Print

The Bookseller

British Book News

Select Booklists published by the Book Development Council

All British Publishers catalogues

Catalogues and booklists issued by publishers and wholesalers

in Japan

I hardly need to add that all enquiries are most welcome.

日本に於ける英国書籍

デレック ユーニシュ ブリティッシュ カウンシル 図 書 館 司 書

聖書、伝道の書のなかに次の様に記されています。

“多くの書をつくればさいげんはない。

多くを学べば体はつかれる”

図書館の司書と同様に、書籍の販売にたずさわる人にとって、本の製作・出版という事業は限りなき事の様に思えます。年々新刊書籍の数はふえ続け、さまざまな主題に関してより特殊な情報が必要とされるのです。コンピューターの本の販売にあたっては店員はコンピューターの専門家であることが要求され、又スポーツについてたずねられれば、その道に通じており、心臓移植手術に関する最新の情報を求められれば探し出し、学生には世界地図の相談を受けるといった具合であります。まさに“多くの書を作ればさいげんはない”又情報は探し出すことにも終りはなく、書籍商人が書籍を売ることにも終りはないのです。後から後から新しい本が出版されるために、新しい本と同様にすでに出版されている多くの種類の本も売らねばならぬという問題が生じて来るのであります。常に新刊書籍がすでに発行されている同じ種類の本よりもよいとは限らないとはわかっていても、新刊書とはかく読者に強い印象を与えるものであります。

この様な問題は日本でも英国でも同じですが、英国の出版社にとって海外へ販売するということはより切実な問題です。1970年には32,000以上の本が出版され、そのうちの半分は輸出されて外国で売られたものなのです。英国で売られたクロス装幀版のほとんどは大学、公共、特殊等の図書館に売られたのです。しかし英国であれ、日本であれ、同じ様な基本的問題は残されています。

これらの問題は書籍を扱って人生を過して来た図書館の司書以外はよく理解されていません。多くの人は本を知識の宝庫だと言いますし、本によって意見を交換しあいます。ある人は本によって知識を得てそれを書きますし、またある人は学ぶために読むのです。理論家は本や新聞で思想や自分の国の文化について、考えをのべます。視野を広め、文化のへだたりを少くして意見の交換をするということは、人々に本を売るために用いられて来たスローガンであります。

私共はブリティッシュ・カウンシルに於いて、図書館と書籍展示センターの両方のサービスを通して、出来る限り英国の書籍を理解していただくために努力しております。

ブリティッシュ・カウンシルの図書館は東京と京都にあり、東京は神田・神保町・岩波ビル8階にあり、次の様な

サービスを行っております。

図書の貸出し あらゆる分野の3万の蔵書があり、特に英文学、人文科学、芸術部門の図書をとりそろえております。

レファレンス・サービス 最新の参考図書と政府刊行物をとりそろえ、英国のあらゆる面についてのご質問にお答え出来る様になっております。

写真の貸出し 英国人の生活、社会制度、科学技術及び習慣のあらゆる方面にわたって写真をとりそろえており、この写真も貸出し可能で、たいいていの場合出版用に複写することもできます。

読書室 この部屋には150種の最新刊の英国の定期刊行物、新聞、雑誌を置いております。バック・ナンバーは貸出しもいたします。又この部屋は勉強や、研究、読書のために快適な設備をととのえております。

英国書籍展示センターは、図書館のとなりであり、一般の方は勿論、公共機関（例えば官庁、図書館、学校、研究所）で英国の書籍をお求めになりたい方に資料をさしあげたり、ご相談をお受け致します。

当センターでは日本の読者向けの約4千冊の新刊書を常時展示致しております。又新しい本が出るたびにいれ換えてまいりますし、毎月、専門書の種目別の特別展示も致しておりますので、ここでは、毎年英国で出版されるあらゆる分野の最もよい本をごらんになれるわけです。

主にアカデミックな本の展示がねらいですが、小説、自叙伝とか気楽に読める本もお見せ致します。

展示する本は見本用で、お貸しすることも、お売りすることも出来ませんが、英国書籍をお求めになりたい時は当センターにおいでになって、英国から着いたばかりの新刊書籍を遠慮なく手にとって、ゆっくりとご吟味いただきたいと願っております。

更にくわしいインフォメーションを求められる方のために、下記のものをそろえてあります。どうぞ御利用下さい。

British National Bibliography

British Books in Print

The Bookseller

英国書籍振興会 (Book Development Council) 発行
の精選図書目録

全英出版業者目録

日本の出版業者及び卸し業者発行のカタログ

どうぞ、御用の折はいつでも御連絡下さい。

「洋書輸入実務とコンピューターの活用」 受講報告

日 時： 46. 4. 16 Pm 2: 00 ~ 4: 00
於 日 本 出 版 ク ラ ブ
講 師： 緑 書 房 丹 羽 正 之 氏
紀伊国屋書店 須田雪雄
(文責記者にあり)

I 講演概況

東光堂石内氏、洋販渡辺氏、U S 山川氏の各社長外約50名出席、各自自己紹介後丹羽氏の講演がはじまる。開会一番、Computer の導入には、トップがその気にならなければ先ず実現は困難で、今回ここにトップの出席してない部下任せのところは、Computer の導入は全く困難であろうという皮肉(?)を言われた。各社共、Computer については暗中模索が多く、質問も技術的なものが多かったように思う。

今回は、経営論的な講演を予定されていたようであるが、出席者に実務担当者が多かったため、内容を変更して実務的な面を中心に講演がなされた。

1時間20分程の講演ののち、質疑応答に移り、予定を15分程超過して閉会となった。

II Computer の効用、導入目的、システム等

- (1) データーのインプットに非常に手数がかかるが機械であるから正確にインプットされれば、早く正確にアウトプットされるので効果は大きい。しかし、すべて1対1で処理されるため、1万円の本も千円の本も同じ手数がかかり、手続の省略等の融通がきかない。又ファイルの一覧性が欠除しているため事故が発生したり、1点だけを参照する場合に予想外の労力が必要である。アウトプットが早いので、アウトプットデーターと現場の作業との接点で時間的ずれが発生し、この調整に非常に苦労するなどの欠点も多いが、システムを合理化し運用を良く行えば矢張り効果は大きい。

- (2) Computer 導入の目的：将来性、特に経営にとって時代の要請でもあり焦眉の問題でもある。インプットには労多いが、アウトプットデーターにより、常に経

営上の先手の対策が考えられ、管理上の誤りを縮少出来るなどの効果は大きい。

何階建かのビルを持つ書店で良く見かける風景だが、売れそうもない本で有効なスペースをつぶし、店員を配置している反面、内部事務で渋滞を抱えているのを見るにつけ、憐憫の情と共に驚嘆している。Computer により市場調査を行い、かんに頼らない科学的な商品管理を行うのが、より人間性を尊重することであろう。

- (3) システム：E D P S (Electronic Data Processing System) の特徴は、原始伝票によりインプットデーターをキーパンチャーがパンチするところにあるが、この方法ではインプットに労力がかかり過ぎ、キーパンチャーの確保に困難があるため必ず失敗するであろう。所詮キーパンチャーという職業は非人間的であり労働力不足から消滅の運命にある。Computer 屋はこの点には深く触れず、外注すれば充分などと言うがこの点が盲点である。

そこで考えられたのが I D P (Integrated Data Processing) システムである。この方法ならば伝票即インプットデーターとなるので、これならば特に能力を要することもなく処理出来る。

(註：この場合 Edge Card が媒体となるので取扱量が多いとカードの管理に問題がある模様。)

尚キーパンチャーのミスは約0.3%の由。

プログラムの開発は苦しくても自社で行うべきで、計算センターなどに依頼すると失敗する。洋書の輸入業務はきわめて複雑であり、プログラムの変更や、新開発は、実情に合わせて行う必要があり、これをその都度外部で行うとなると経費も増し困難が多い。

(4) 結論：オーに内部の体制を整える必要がある。一般に日本の商社はそうであり、洋書輸入協会自体もそうであるが、各社共未だ客におもねる傾向が強く、客の言いなりの受注をしてかえって信用を落している。Yes と No を素直に言えるよう内外の体制を整える必要がある。

次に先にあげたトップの覚醒なしには、機械化の道は遠いことを強調したい。トップが積極的に問題と取り組み、かなりの出費も覚悟して当たらないと、Computer の導入という新しい試みの成功は困難である。

Computer を導入したら、どれだけ人が減るかということばかり考えている経営者が多いようであるか之は考えものである。Computer を導入しても決して急に人は減らない。むしろ一時的には増えよう。ただしこれから先 5 年、10 年を展望すると、かなりの業務の増大に対しても人員増加はすくなくて済むと言える。

システムは大きければ大きい程メリットが大きい。しかし大きいシステムの運用には大きい Computer が必要で、これらを業者が個々に導入することは困難であるから、洋書輸入協会などで Computer を導入し、共同利用をするなどの方法が一日も早くのぞまれる。社の秘密が洩れるという心配は全くない。

Computer (Hardware) を入れることは、二義的であるが、重要なのはシステムデザインである。各社の内部体制を整えていく必要がある。

又これからは深刻な労働力不足に悩まされるし、労働の質も低下が予想される。これに対処するためには、現在の手作業を積極的に機械化しなければこれからの経営は困難である。労働の質の低下には、システムを合理化してゆくことである程度対処出来る。

III 10年間の緑書房の実績。(参考)

緑書房は10年前に会計機を導入して機械化に着手し、7年前にコード No. を設定、5年前に Computer の利用を開始、4年前にコード No. を改訂し現在に至っている。10年前を 100 とした場合

売上高	301%	売買益	319%
人件費	285%	人員増加率	115%
純益比	194%		

となっている。

ここで注意していただきたいのは、人件費の対売上比率は、84.5%と低下していることである。人員も115%の低率である。省力化というのは、このような人件費、人員の低率上昇をもって言えるのであって、急に人員が減るということは前に述べた通り余り期待しない方がよい。

IV 実務関係

(1) 準備書類、コード作成、Edge Card 準備、帳票設計、各種 No. の作成 (Order No. Stock No. etc) 等の準備作業を行ったが、かなりの労力がかかった。

(2) 分析図：System を考えるために不可欠のもの。

(3) Book のマスターファイル (註：ここでは Edge Card と見てよい) は7000点あり、雑誌は2000点、雑誌の Code No. には分類は行っていない。

(4) 雑誌は発注ではなく、取消と New を取扱ってゆくという点からシステム化されている。

V 受講所感

(1) 緑書房のように取扱商品を限定し、市場をある程度固定的に考え、かつ社長御自身が積極的に取組んではじめて Computer の導入が実現したと言えそうである。

(2) Computer System の導入に先立って、社内の体制整備が重要で、特に大きい組織になる程その必要があり、あわせてシステムデザインについての研究にかなりの労をさかなければならないと痛感する。

(3) インプットの労力はかなり多く、予想されるキーパーンチャー対策は今から充分検討の必要があると考えられる。

(4) 講師は非常に早口で、聞きとり難い所があった。然し実際に Computer を活用しておられる経験者の話としては有益であった。ただ、洋書の取り扱いには複雑で、取り扱いにくいという実感があるだけに、洋書以外の商品を多角的に取り扱っている所には尚一層の困難があるように思われる。(以下次号)

海外ニュース

「マグローヒルがドイツの出版社を取得」

このところアメリカ資本がドイツの出版社を買収する例が目立ってきているが、このほど、マグローヒル社が、ミュンヘンの出版社 Hans Reich Verlag の本と社名と版權を取得することになった。

マグローヒル社は、すでにデュッセルドルフに、現地法人 McGraw-Hill Book Company of Germany を設立しているが、Hans Reich Verlag は、これに統合される。しかし、インプリントには Hans Reich の名を残すことになっている。

なお、Hans Reich 社は1946年創立の、人物や各国などの写真集を専門とする出版社である。

(Publishers' Weekly, 1971年5月10日号より)

—— 紀伊國屋書店提供 ——

西独、マルク変動幅拡大を発表 オランダが追随 スイス、オーストリアは平価切上げで対応

西独政府は5月9日、臨時閣議を開き、EC（欧州共同体）緊急理事会の決議に沿って為替変動幅の拡大に踏み切った。オランダがこれに直ちに追随、ベルギーは結局これに追随はしないものの複数相場制でこれに対応した。スイス、オーストリア両国は同日、それぞれ平価切上げを発表し、この結果、西独を中心とする4カ国が平価変更ないし1%以上の変動幅に移行したことになり、現行IMF（国際通貨基金）体制は“変則状態”に立たされた。

スイス政府は9日、スイス・フランを7%切り上げる方針を決め、同日午後8時（日本時間10日午前4時）全国のラジオ、テレビを通じスイス国内にこの旨声明した。新平価1ドル＝4.08スイス・フランは10日から実施される。

スイスとの関係が密接なオーストリアもオーストリア・シリングの5.05%切り上げを決めた。

スイス・フランは1936年以来35年間にわたって一度も平価を変更せず、世界でも安定通貨の代名詞とされており、それだけにラジオ、テレビもスイス史上、これはエポック・メイキングなことだと強調している。

—昭和46年（1971年）5月10日、月曜日、日本経済新聞夕刊より—

戦後の国際通貨関係の主な動き

- | | |
|------------|-----------------|
| 1947. 3. 1 | 国際通貨基金（IMF）発足 |
| 48. 1. 26 | 仏、フランを44.45%切下げ |
| 49. 4. 25 | 日本、1ドル＝360円に |

9. 18	英、ポンドを30.5%切下げ
9. 20	仏、フランを38.75%切下げ
57. 8. 10	仏、フランを16.7%切下げ
58. 12. 29	仏、フランを17.55%切下げ
60. 1. 1	仏、フランのデノミネーション実施
61. 3. 6	西独、マルクを5%切上げ
67. 11. 18	英、ポンドを14.3%切下げ
68. 3. 17	ゴールドラッシュにともなう金（きん）の2重価格制の採用
69. 8. 10	仏、フランを11.1%切下げ
9. 24	西独、為替市場を閉鎖
9. 29	西独、変動為替相場制を採用
10. 27	西独、マルクを9.29%切上げ
70. 1. 1	I M F、特別引出権（S D R）の第1回配分を実施
6. 1	カナダ、変動為替相場制を採用

ニ ュ ー ス

- 米国 Van Nostrand Reinhold Company の Mr. R. S. R. Hutchison 5月中旬来日。
- 英国 Longmans Group Ltd. の Divisional Managing Director, Mr. J. A. E. Higham 5月中旬来日。
- 5月17日より5月21日の間、オーストラリア大使館商務部において、オーストラリア書の展示会が開催され、そのレセプションは、同所において5月17日に行われた。レセプションには、オーストラリア大使及び Angus & Robertson 社の Mr. John, R. Ferguson 他多数の参会があった。
- 極東書店とライプツィヒ市のドイツ図書輸出入株式会社の共催で「ドイツ民主共和国図書展示会」が、東京においては神保町交差点の岩波ビルで5月10日から16日まで、大阪においては大阪駅前梅田オービルで5月25日から29日まで開催され、盛況のうちにおわった。東京では5月10日夜ホテル・オークラで、大阪では5月24日夜大阪グランド・ホテルでそれぞれオープニング・レセプションがひらかれた。
- 米国アジソン・ウエスレイ社の極東代表として5月より塚本正広氏が勤務されることになった。

同事務所：千代田区猿樂町1の2の2 日貿ビル

アジソン ウエスレイ社東京事務所

☎ (292) 3751 内線 283

- ウエザヒル出版社販売部は新社屋工事着工に伴い、販売部を本年12月末日まで下記へ移転する。

杉並区堀ノ内2—21—13

ウエザヒル出版社販売部 ☎ 166

☎ (313) 5221 (代)

会報50ヶ月のあゆみ

会報委員会

洋書輸入協会会報は、昭和42年5月に Vol. 1 No. 1 を
発刊して以来、此の号ではや通巻50号を数えるにいたった。

昭和42年5月は、丁度洋書輸入協会が組織的に大きく変
化した時期であって、始めて事務局を独立させ、専任の事
務長を置き、理事会を支える組織として各種の委員会を創
設し、そして事務所を持つとしていたときであった。

会報は、この新しい組織作りの一環として提案されたも
のであり、会報委員会が発足し、才一回の委員会を開いた
のが、昭和42年の4月28日である。

以来50号を迎えたが、自慢して良いことは、50カ月の
間、唯の一度も休刊がなく、連綿として monthly に刊行
されたことであろう。これは、委員会のメンバーのたゆま
ない努力のおかげであると共に、会員各位の御理解と御協
力の賜物であろうと、深く感謝している次第である。

作られた50冊の会報を振りかえってみると、No. 1 には
理事長の発刊の辞を揚げ、4頁の体裁となっている。
No. 2 では定時総会、理事会報告を載せ、之は現在まで続
いている。同時に会員紹介が始まり、又「特別記事」とし
て部外からの原稿を頂きはじめた。No. 4 では始めて写真
を掲載、以後の写真は、殆んどメクレンブルグの鈴木氏の
撮影になるものである。

No. 5 から「洋書こぼれ話」の連載を始めた。才一回は
福本初太郎氏に明治回顧をお願いして Vol. 2 の No. 4 ま

で続き、以後明治の終りから大正時代にかけてを中村春太
郎氏に、才一次世界大戦直後から昭和初期までを服部正喬
氏に、昭和初期から昭和15年頃までを八木佐吉氏に、才二
次大戦前後を石川実氏にお願いし、Vol. 4 の No. 6 をも
って一応終了した。此の企画は、いずれも業界の古老の方
々をお願いし、そして快くお引き受け頂いたものである
が、どなたも驚くほど記憶がすぐれておられ、貴重な資料
を業界の後輩のために残された。これはまた日本出版文化
史のためにも得難い資料になると思われる。

Vol. 1 No. 5 には、ユー・エス・エシアティック社の広
告を得られたことも特記すべきことであり、以来各方面よ
り協力を頂いて会報の存続を可能ならしめている。

海外ニュースは Vol. 1 No. 6 より始まったが、之は紀
伊國屋書店の伊藤暢章君の原稿で、今日まで続いているし
将来も続けられよう。

Vol. 1 は、No. 8 で12月になったので、昭和43年1月か
らは Vol. 2 No. 1 と巻を改めた。この号には「ポンド切
下げと日本経済への影響について講演会ひらく」の記事
と、日本銀行の吉野俊彦調査局長の講演要旨が掲載され
た。これは、経営委員会主催の講演会であり、以後折に触
れてこの種の記事が掲載されることとなる。

出版社在日代表の紹介は Vol. 4 No. 4 から始まったが、
前述の会員紹介記事と、Vol. 5 No. 1 から連載中の「会員
の横顔」と併せ、会員間の親しみを深めるために大変役立

っているのではなからうか。

Vol.5 No.1 から、経営シリーズを実務シリーズが始まった。夫々の才一回には、洋販の渡辺正広氏と丸善の小松三蔵氏の寄稿を得て、以後断続的にはあるが誌面を飾っている。特に八木氏の実務シリーズは、ぬきずりにして各社の新入社員教育に資する等、実際に役立てられているものも多い。

特輯号としては、洋書交換委員会の洋書まつり特輯号が出され、ユニークな記事としては、Vol.3 No.11 に白水社本田喜恵氏の文化厚生委員会主催「国際書籍展視察旅行」に参加された折の写真入りの記事がある。その他50号を数える程になれば、面白い記事、ためになる記事が沢山蓄積されていて、各位にももう一度読み返して頂くよう

に、No.1～No.50 の製本配布をも企画している次第である。

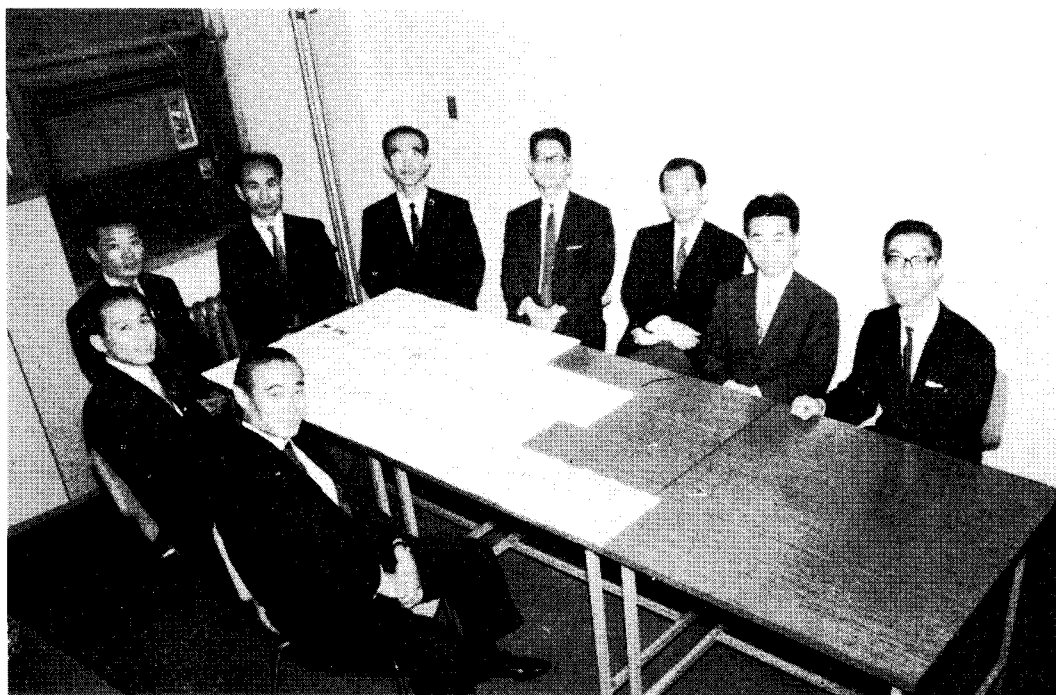
しかし、仔細にみると誤植もあるし、字くぼりもアンバランスなものも多く、週刊紙と違って掲載内容が月遅れとなるための即時性も持たず、何かと不充分、不満足な点が目立つ。未だ幼稚さを脱け切れていないような感じで、編輯委員一同世に恥じるものを感じている。

ただ、この会報が、協会のステイタスをあげ、知名度を拡めたことには役立っているのではないかとひそかに自負し、かつこれを発展させるためには、会員各位の御協力御鞭撻こそがその原動力であることを銘記しつつ、且つ各位の自発的な御寄稿を願って更に努力を続けたいと思うものである。

——相良記——

会報委員会メンバー

創刊以来50冊の会報を囲んで、右向うから メクレンブルグ・鈴木、アカデミアミュージック・平岩、教文館・後藤、極東書店・一條、紀伊國屋書店・相良、丸善・木下、東販・川島、三省堂・野村、事務局・寺久保の各氏。 46. 5. 19 撮影



祝 創 刊 50 号

A B C 順

ADDISON-WESLEY PUBLISHING COMPANY, INC.

International Division

極東代表 塚 本 正 広

東京都千代田区猿楽町一丁目2の2 日貿ビル ☎101
Tel. 292-3751 内線 283

BOOKS FOR ASIA (JAPAN) LIMITED

Associated Book Publishers Ltd./Sir Isaac Pitman & Sons Ltd./Constable & Co., Ltd./Ernest Benn Ltd./Hutchinson Publishing Group/British Printing Corp. Ltd./A & C Black Ltd./Harcourt, Brace & World, Inc./Hutchinson Mifflin Co.

日本代表 市 川 温

東京都千代田区神田神保町二丁目2
洋書センタービル ☎101

Tel. 263-6804/5

BRITISH BOOKS LIMITED

Longman Group Ltd./Penguin Books Ltd./
Oliver & Boyd/J. & A. Churchill/E. & S.
Livingstone

日本代表 酒 井 忠 男

東京都千代田区神田神保町二丁目2
洋書センタービル ☎101

Tel. 265-7627

CBS/EDUCATION & PUBLISHING GROUP

Holt, Rinehart & Winston, Inc./W. B. Saunders Co./Creative Playthings/Bailey Film Associated (DOD & international schools only)/Anthony Blond Ltd.

極東支配人 ウィリアム・A・フューラン
東京都港区南麻布三丁目3の32 ☎106

Tel. 473-0944

テキストブック リチャード・O・ヨーカム
プロモーション
東京都小平市小金井南町一丁目890 ☎187

Tel. 0423-81-5748

COLLIER-MACMILLAN INTERNATIONAL

極東代表 石 神 幸 宏

東京都足立区日の出町27の1の1015 ☎120

Tel. 881-8004

EASTERN BOOK SERVICE, INC.

G. Allen & Unwin Ltd./The Butterworth Group/
N. V. Associated Scientific Publishers/Mouton &
Co. N. V./A. W. Sijthoff/Plenum Publishing Corp./
Random House, Inc./Georg Thieme Verlag

日本・東南
アジア代表 ロビン・ド・クライヴロウ

東京都文京区本郷五丁目29の13 ☎113

Tel. 813-4577/8

FEFFER & SIMONS, INC.

Feffer & Simon Group Publishers' Export
Representative

日本代表 牛 尾 三 郎

東京都千代田区神田猿楽町一丁目2の1
新日ビル ☎101

Tel. 293-7904

HARPER & ROW, PUBLISHERS

Harper & Row, Publishers (Basic Books, Inc./
W. A. Benjamin, Inc./Canfield Press/Schenkman
Publishing Co.)

日本代表 北 村 雅 子

東京都千代田区神田神保町一丁目29 ☎101

Tel. 291-6343/4

LITTON EDUCATIONAL PUBLISHING INTERNATIONAL

Van Nostrand Reinhold Co./American Book Co./
McCormick-Mathers/Delmar Publishers

日本代表 桑 島 春 彦

東京都千代田区神田小川町三丁目10の2
駿河台ビル ☎101

Tel. 291-0442

McGRAW-HILL INTERNATIONAL, INC. Tokyo Office

支 局 長 稲 垣 利 一

東京都中央区銀座四丁目14の11 七十七ビル ☎104

Tel. 542-6918/9

祝 創 刊 50 号

MACMILAN & CO., LTD./MACMILLAN JAPAN OFFICE

日本代表 田 所 義 丸

東京都千代田区西神田一丁目3の6 三崎町ビル ☎101
Tel. 292-8722

PRENTICE-HALL OF JAPAN, INC.

Prentice-Hall, Inc./Charles E. Merrill Books, Inc./
Wadsworth Publishing Co., Inc./Robert J. Brady
Co./Warren Schloat Productions, Inc.

営業部長 大 垣 雅 昭

東京都千代田区紀尾井町六丁目20 ☎102
Tel. 261-4889・1861

SIMON & SCHUSTER, INC., TOKYO OFFICE

日本・韓国代表 小 野 照 男

東京都練馬区東大泉町144 ☎177
Tel. 924-0866

SPRINGER-VERLAG

Berlin, Heidelberg, New York, Wien
Münchn, London, Paris, Tokyo

日本代表 矢 沢 静 子

東京都港区芝公園 日活アパート720号 ☎105
Tel. 432-4567

ACADEMIC PRESS, INC./JOHNSON REPRINT CORPORATION/WALTER J. JOHNSON, INC. (U.S.A. & England) YALE UNIVERSITY PRESS/D.C. HEATH & CO.

日本代表 ウエザヒル出版社

東京都杉並区堀ノ内二丁目21の13 ☎166
Tel. 313-5221(代)

OXFORD UNIVERSITY PRESS K. K.

Oxford University Press/Faber & Faber Ltd./
Routledge & Kegan Paul, Ltd./Oxford University
Press Inc./Hong Kong University Press

支配人 川 脇 達 郎

東京都文京区大塚三丁目3の3 遠州ビル ☎112
Tel. 942-0101/3

SCOTT, FORESMAN AND COMPANY

日本・極東代表 山 崎 真 須 美

東京都府中市浅間町四丁目三番K-10 ☎183
Tel. (0423)63-6025

SOUTH-WESTERN PUBLISHING CO.

Specialists in
Business and Economic Education

日本・極東代表 山 崎 真 須 美

東京都府中市浅間町四丁目三番K-10 ☎183
Tel. (0423)63-6025

HENRY M. SNYDER & CO., INC.

Abelard-Schuman, Ltd./ACB Books, Inc./
Acropolis Books and other Snyder Group

日本代表 ハンス・エンデルレ

東京都千代田区麹町六丁目3 ☎103
Tel. 263-4252

JOHN WILEY & SONS, INC.

日本代表 塚 部 洋

東京都千代田区神田神保町一丁目34 村山ビル ☎101
Tel. 294-8444

会員の横顔

エンデルレ書店
ルーベルト・
エンデルレ

横文字の本ばかり取扱っている業種なのだから、紅毛碧眼の方が何人かは此の欄に登場しても不思議ではないと思われるのに、実際は意外に少く、しかも協会関係まで担当されている方となると、今月御紹介するエンデルレ氏が唯一の方となるようである。



1913年ドイツはフライブルグの生れ。15才の時学校の先生の紹介で、同市にある170年の歴史を持つヘルダー社に入る。もっとも始めてヘルダー社の大きな建物に足をふみ入れた時は、そこが何をやる会社か全然知らなかった、というのだから愉快である。そこで商業学校に通いながら、みっちり4年間の見習教育を受ける。「ドイツは4年、日本はたった2カ月」と云ってエンデルレさんは笑う。1935年の或る日突然に、上司から日本行きを命じられ、それまで殆ど関心のなかった東洋の島国が爾後40年の生活の場となってしまう

来日以来の氏の歴史は、そのまゝエンデルレ書店の歴史であり、前の会社紹介に詳しい(会報4号)。戦争中も出版業務を続け、カトリック書の出版では用紙の配給が受けられないので、哲学書の名目で紙をもらった。刷りあがった本を牛車に積んで印刷所から運ぶ途中、空襲にあってこわい思いをするなど、若い人達の知らない体験もしている。

御家族は奥さんと二男二女。そのうち外地にいる方を除いて、奥さん、子息のハンスさん、娘のエリザベートさん、と全員が書店の仕事を手伝っていられるところ、ドイツの勤勉さを目のあたり見る思いがする。所属は渉外委。(自宅：茅ヶ崎市東海岸南2-4-2)

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許のAgent Listにご記入願います。

ナ ウ カ ☎ 981-5261
Kraus Reprint, Liechtenstein

École Normale Supérieure. Annales Scientifiques
Ser. III: Vols. 37-82. Paris, 1920-1965

Clothbound set ¥607,200

Paperbound set 526,240

Paperbound per vol. 11,440

Journal de Mathématiques Pures et Appliquées

Ser. IX: Vols. 1-42, Paris, 1922-1963

Clothbound set ¥554,400

Paperbound set 480,480

Paperbound per vol. 11,440

Vol. 5. No. 4. 掲載分にミスプリントがございましたので改めて本号に於てご案内申し上げます。

住所及び電話番号変更

次の通り変更通知がございましたのでお手許の名簿の訂正をお願い申します。

日本洋書販売配給株式会社(洋販)

新 東京都新宿区西大久保4-170

☎ (03) 208-0181 代 ☎ 160

医歯薬出版株式会社 洋書部

新 東京都文京区本駒込1-7-10

☎ (03) 944-3131 (大代)

洋書部直通 (03) 828-9147, 9149

正誤表

次の通り下線部をご訂正願います。

List of Sole Agents. 1971 ed. 75頁

Litton Educational Publishing International,

Tokyo Office

千代田区神田小川町 3-10-2

駿河台ビル 3階

Tel 291-0442

関西支部だより

支部職員葛城益子さんはこの程退職され、後任に中野けいこ主さんが任命されました。

ひろく一般からの投書を募ります!

テーマ： 洋書輸入協会にのぞむ

- 字 数：400字内外
- 投稿〆切：毎月末
- 誌上とく名を認めます
- 取捨及び多少の加筆訂正については会報委にお委せ下さい
- 掲載分には薄謝を進呈
- 送 附 先：協会事務局宛

昭和46年6月 通巻第50号 洋書輸入協会

編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関 西 支 部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329